

IGF2021報告会？案

2021-11-29
作成:上村圭介

1. 名称

- IGF 2021報告会

2. 主催

- IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム

x. 日時

- 2022年1月後半

3. 目的

- IGF 2021の内容について振り返ること。
- 国内のインターネットガバナンスに関する論点を洗い出すこと。
- 2022年(とそれ以降)へ向けた方向感を得ること。
- 国内のインターネットガバナンスのコミュニティを広げること。

4. 次第

1. 開会

- 開会、あいさつ

2. IGF 2021報告(60分)

- IGF 2021の内容を解題する。
- 今回の目玉はなんだったか、主要な論点は何か。
- 日本が深く関係しそうな論点は何か。
- 登壇者:IGF 2021参加者(オンサイト、オンライン両方)

3. テーマセッション(60分)

- IGFに提起することにつながりそうな日本の論点
- 報告会の内容と直接関係なくてよい
- テーマを決める必要がある。
- 登壇者:IGF 2021参加者とは限らない。

4. ビジネスセッション(45分)

- 国内組織作りの今後

5. 閉会

- あいさつ
- 閉会

以上

コメント、意見

- 報告会の要素がもっとあっても、よいのでは(もっと、あるものを想像していた)?
 - 4名/60分ぐらいでも、充実したものにはできるのでは?
 - 自分が直接興味をもっていないことについて、他の人の視点から報告を聞くことは有益。
 - ほかの人の報告を聞くことを重視するなら、60分だと短いかも。

- 毎日のブリーフィングを見ればある程度分かったとしても、こういう場でまとめて解説してくれるとありがたい。
- 目玉や主要な論点は人によって大きく異なるので、複数の人から報告を聞けることがありがたい。
- 日本としてこういうセッションをした、という話を聞きたい。
- IGF2021報告のところは、トータルで30分×3枠ぐらいでもよいかも。
- テーマセッションを設けるなら、公募にするべきか。
 - サブスタンスを扱うセッションでも、公募にしない可能性もある？
 - このグループ的には、広く募ることを重視するという考えもあり？
 - 報告会のタイミングで公募して、セッション提案が出てくるかやや不安。企画側が、日本で盛り上がるテーマを選べるなら、それでもよいのでは。
 - 日本政府のオープンフォーラムのテーマを取り上げることはできないか。
 - W3Cでは、サステイナビリティの議論の中で、標準化におけるエネルギーの問題に注目が集まっている。ほかにも、セキュリティ、プライバシーのことがテーマとして考えられるのではないか。
- ロジ的なこと、その他
 - 1回4時間は長いかも。
 - 「事前会合」をNRIの年次会合としての位置づけで開催して、「報告会」は報告会でよいのでは。
 - 年2回同じような規模・位置づけの会合を開催するのは大変。報告会は、参加した人のラウンドテーブル・意見交換会のようなものでもよいのではないか。
 - 軽量級の内容として、早い時期に開催する。軽量級なら、主催は事前会合の時と同じように「活性化チーム」主催でよいのではないか。
 - 日程は1月後半で候補日を調整する。報告会の内容と合わせて、メーリングリストで意見を聞く。
 - 12/13-12/17の週に、テーマセッションのネタ探しを(MLベース)して、12/20の会合で決める。